

名古屋城天守閣の木造再建に「和鉄(玉鋼)による和釘」の活用を！(要望)

平成31年1月21日

刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟

共同代表 甘利 明
細田 博之
竹下 亘
幹事長 逢沢 一郎

名古屋城は、かつて「天下普請」として築城され、城郭として初めて国宝に指定された日本を代表する名城のひとつです。残念なことに、先の大戦により主要な建物は焼失しましたが、市民の寄付により再建された現在の天守閣は名古屋市の象徴であり、これを木造により再建することを目指す河村市長に改めて敬意を表する次第です。

城はその時代の最先端の建造物であり、当時の技術の粋を駆使して築かれてきました。その中でも「和鉄製の和釘」は、古来より城づくりを支えてきた重要な部材です。

和釘は、鋼を折っては叩き、僅かに残る不純物を無害化するとともに、「黒錆び」と呼ばれる酸化被膜をまとう性質により、洋釘に比べて極めて錆びにくいいため保存性が高く、古来より城郭や神社仏閣などの修理・復元に必須の材料として、法隆寺など木造の古建築を現代に伝える重要な役割を果たしてきました。しかしながら、時代とともにその需要が減少し、現代では技術者の高齢化や後継者難等により、製作技術の継承が危ぶまれています。

このような状況において、名古屋城天守閣の木造再建に「和鉄製の和釘」を活用することは、天守閣の長期の保存・継承に有効である上に、危機に瀕している和鉄・和釘製作関係者はもとより、日本刀関係業界の励みにもなります。

つきましては、木造再建される名城-名古屋城を幾世代に涉って継承されていけるよう、また日本古来の貴重な技術である和鉄製作を維持していけるよう名古屋城天守閣の再建に当たっては、「和鉄製の和釘」を是非とも活用していただくよう要望いたします。